

■ 環境負荷低減を支援

- 富津館山道路等の開通により、安房地域内の自動車の走行性が向上し、自動車から排出されるCO₂、NO_x、SPMは15～35%減少
- これらの排出ガスの削減により、地域の環境負荷が低減

環境影響負荷の算定範囲



算出条件：富津館山道路沿線の富津市・鋸南町・南房総市・館山市の県道以上のセンサ対象道路を走行する車両の各排出量を、開通前後の道路ネットワークを踏まえて比較

※1：開通前後の交通量と旅行速度は、1997年と2021年の全国道路・街路交通情勢調査の24時間交通量と混雑時旅行速度を使用

※2：CO₂・NO_x・SPM排出量の原単位は『国土技術政策総合研究所資料第671号 道路環境影響評価等に用いる自動車排出係数の算定根拠（2010年度版）』より引用

※3：林野庁HPより引用し算出（36～40年生のスギ人工林1haが1年間に吸収する二酸化炭素の量は約8.8トンと推定される）

※4：東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを対象（100ha）

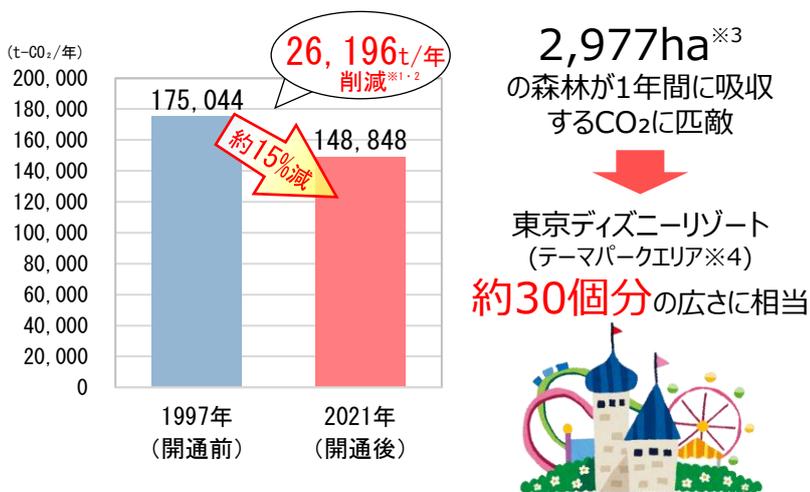
※5：NO_x排出削減量を、大型車1台が40km/hで平均走行距離を走行した場合に排出するNO_x量に換算

※6：平均走行距離（営業用貨物車）：約45km/台（2021年全国道路・街路交通情勢調査）

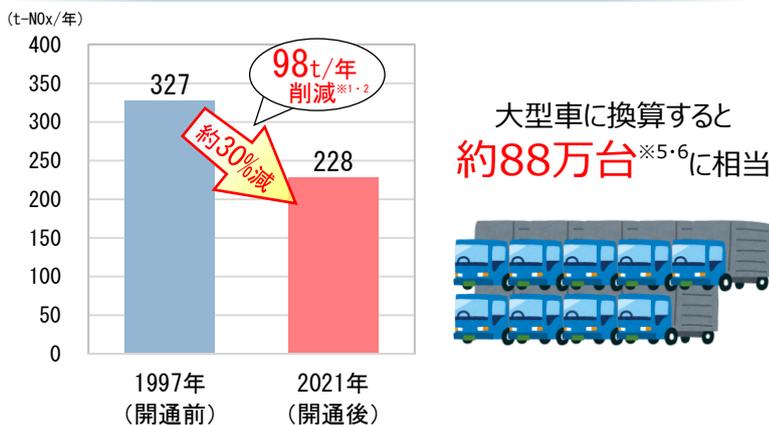
※7：SPM削減量を500mlペットボトル1本分のSPM量（約100g・SPM/本）に換算

【出典】全国道路・街路交通情勢調査（1999年、2021年）、客観的評価指標の定量的評価指標の算出方法（案）（国土交通省）、国土技術政策総合研究所資料第671号「道路環境影響評価等に用いる自動車排出係数の算定根拠（2010年度版）」

CO₂排出量



NO_x排出量



SPM排出量

